

# 平成 26 年度 第 5 回 COC 実施本部会議 議事録

平成 27 年 1 月 7 日 (水)

17:30~18:00

場所: 本部理事長室

出席者: 清水学長、齋藤教育開発センター長、田浦学生部長、岡野研究開発推進センター長、西谷事務局長、水本学生支援部長、山村教務担当課長、木村企画部長、橋本地域連携推進室担当課長

## 【議題】

### 1. 本年度事業計画と今後の計画について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長から配布資料に基づき説明があった。

#### 『伊勢志摩定住自立圏共生学』科目 I~IV について

- ・科目 I・II は、自治体のご担当授業の日程及び授業概要が決定した。  
それぞれの市町の特徴によって授業の形態は異なるが、本学教員担当回も含めて、新たに採用される教員と現 COC 担当教員でこれらを運営していく。
- ・科目 III・IV は、配当セメスターと授業担当者（三重銀総研）の予定にずれが生じており、今後授業開講体制について調整を行う。

#### 圏域内視察について

- ・当初の視察方法から変更（運営会議メンバー全員が全日程参加→本学教員+事務サイドで各市町視察先を個別に半日もしくは1日ずつ視察）し、2/18 鳥羽市を第1回目として 3/23 まで視察完了予定。  
→借り上げバスによる移動ではなく主にレンタカー等による移動となるため、予算計上している「バス借り上げ費」等の予算管理に注意が必要。

#### 伊勢志摩定住自立圏に関する基礎的研究について

- ・筒井先生を研究代表者として学内の篠田学術振興基金に申請中である。
- ・基礎的データについて自治体からの住基データの提供を受けて住民意識調査を行うもの。

#### COC 事業専用ホームページについて

- ・12月18日より公開。
- ・トップページは「畑に水をやるということ」で「人づくり」をイメージさせたもの。
- ・学修プラットフォーム機能部分については、3月末までに構築予定。

#### 次回（第8回）運営会議について

- ・平成 27 年 2 月 5 日（木）18 時～ 開催予定。

#### 平成 26 年度 予算収支中間報告について

- ・「書籍・雑誌」の消化率が低いが、現在採用予定教員にも選書を依頼している状況。
- ・CLL 候補場所視察を春季休業期間中に、圏域内視察を 2/18 以降実施することで「参加市町活動拠点への旅費」等は支出見込みである。

<質疑応答>

(問)「HP 作成費」の残額が 190 万ほどあるが、支出予定は怎么样了っているか？

(答)当初計画通り 3 月末にかけて学修プラットフォーム機能を構築予定ゆえ、それにより支出できる見込みである。

(問)『伊勢志摩定住自立圏共生学』パンフレット作成時期は怎么样了っているか？

(答)当初計画通り 2 月中に作成予定である。

審議の結果、異議なく了解された。

## 2. その他

特記事項なし

### 【報告事項】

#### 1. 国内先行事例視察報告について

清水学長の求めに応じ、島根大学および雲南市への視察報告（12/16～17）が齋藤教育開発センター長よりなされた。

##### （島根県雲南市）

- ・雲南市は、自治会や町内会といった従来の地縁型自治組織から、人口減少・少子高齢化社会に対応した、より広域的な協議会型の住民運営組織の在り方を研究・実践していることで知られており、その研究会（「小規模多機能自治組織の法人格取得方策に関する共同研究」）には三重県伊賀市、名張市も参加している。
- ・町おこしに対して意識の高い人たちを集め新たな自治組織を作っているが、既存法令上では、新たな自治組織が多様な機能を担うことが難しいため、総務省と協議しながら現在法整備を進めているという話を伺った。
- ・自分たちの課題を自分たちで解決していくのだという主体的な地域住民の存在が町を元気にし、新たな人口を呼び込むということを実感した。

##### （島根大学）

- ①島根大学が課題解決型教育で取り組まれている地域課題について
- ②教育学部の「1000 時間体験学修プログラム」とCOCの「地域貢献インターンシップ」との関係について
- ③しまねCOC事業推進協議会について
- ④ベースストーン科目、キャップストーン科目、学際的地域活性化副専攻制度、学部の枠を超えた卒業研究について
- ⑤農林水産業の6次産業化に関わる研究について

視察を行った。

特に教育学部で実施されている 1000 時間プログラムとCOCのインターンシップとの関係をどのように整理しているのか伺ったところ、COCプログラム自体が進んでいない状況で、今後各学部と調整しながら進めていきたいとの回答であった。地域インターンシップの先行事例としてお話を伺ってきた。

- ・島根県内での人口増事例（海士町など）

（今後の予定）

信州大学（2/6）、長崎県立大学（2/9～10）を視察予定

<質疑応答>

（問）今回の視察で参考になった点は？

（答）1000時間プログラムに関する内容である。

（問）1000時間プログラムによって実績はあがっているのか？

（答）教員採用試験の実績が上がっている。都市圏での合格者も最近は増えてきているとのことであつた。

審議の結果、異議なく了解された。

## 2. COC 公式ホームページについて

【議題】1. 本年度事業計画と今後の計画について に同じ。

## 3. 予算の執行状況について

【議題】1. 本年度事業計画と今後の計画について に同じ。

## 4. その他

<質疑応答>

（問）科目Ⅲ・Ⅳで使用するテキストについて。

（答）農林水産省「新事業創出人材育成事業」で（株）三菱総研が作成したものである。

豊橋科技大、愛媛大などが6次産業化人材育成プログラムのテキストとして本テキストを使用しており、当初計画段階から三重銀総研には本テキストを使用して県内の取組み事例紹介をお願いしている。

（問）三重県内で伊勢志摩の他に定住自立圏構想を行っているところはあるのか？

（答）松阪市、多気、明和町が検討している。また「いなべ市」が東員町と形成協定締結（平成22年8月）、ビジョン策定を行っている。

（問）先行事例視察は初年度（H26年度）のみか？

（答）今年度のみである。

（問）科目Ⅰ・Ⅱの内容を見ていて市町間に温度差があるようだが。

（答）温度差というよりは、各自治体の規模や職員数等により自治体内の意見調整スピードに差があるのではないかと考えている。時間はかかっているが運営会議の雰囲気は全体として協力的である。

## \* 次回日程

平成27年2月4日（水）教学運営会議終了後～ 記念講堂本部大会議室 で開催されることが確認された。

以上